

深江丸乗船にあたり

深江丸の乗船にあたり下記の点に留意いただくとともに、乗船中は「船内生活の心得」に示すとおり、秩序と規律ある船内行動を心がけ、乗船者全員の協力により楽しい充実した航海を目指しましょう。

なお、気象・海象条件や航路事情等により運航予定を変更する場合がありますをお含みおきください。

神戸大学大学院海事科学研究科 附属練習船深江丸 船長

◎ 服 装

- ・ 深江丸乗船中は活動しやすい服装（実習の場合は指定の作業服と帽子）とし、普段使用している帽子と名札を着用してください。
- 特に、袖口やズボンの裾がひらいているもの、飾りのベルト等が出ているものなどは、各種の訓練や機関室見学、平時や緊急時における船内行動に支障となり危険な場合がありますので避けてください。ショートパンツやスカートでは乗船できません。ズボンを着用してください。
- ・ 実習や研修中は、感電や低温ヤケド防止のため、ピアス、ネックレス等の貴金属類は身にけないでください。
- ・ 船の構造上、居住区を含め船内を一律均等に空調できませんので、暑さ寒さ対策として必要な衣類を余裕をもって準備してください。（緊急時に防寒用としても使用できるもの）
- ・ 寄港地で自由散歩上陸が予定されている場合は、上陸用の衣服を別途準備してください。

◎ 靴

- ・ 安全上、スリッパやサンダル・ハイヒール靴等での乗船は許可しません。船体動揺時でも動きやすく、靴底が滑りにくい、ごく普通の清潔な靴（運動靴等）を着用してください。
- ・ 居室からシャワー室を利用する際や洗面等、停泊中の夜間や早朝においては別途持参したスリッパ等を使用してもかまいません。船内行動では清潔な靴下を必ず履いてください。

（・ 実習の場合は安全靴を持参。）

◎ 携行品：

- ・ 健康保険証（本証） 持病のある方は**必要な専用の医薬品** 雨具 タオル 洗面具
- ・ 清水の搭載量に限りがあるため、船内で衣類の洗濯はできません。泊を伴う航海では、その期間中に必要な着替えや下着、タオル等を十分に準備して、乗船時に持ち込んでください。
- ・ 乗船（航海）の目的ごとに個々に必要な文房具類（メモ帳、筆記用具等）
- ・ 研究航海などでは必要な機器類（テーブルタップ・延長コード等を含む電源コンセントから先）利用可能なPCは用意していません。データ整理等は各自でPC等を用意してください。
- ・ 深江丸には自動販売機はありません。飲料（缶・PET ボトル等）やおやつ他、嗜好品などは予め各自で用意して持ち込んでください。

※ 深江丸にはシャワー設備があります。シャワー時のボディソープとシャンプーは船で用意しています。

◎ 持込み禁止：

- ・ ゲームや小動物の他、船内共同生活を阻害すると思われるもの
- ・ 人や船に危害を加えるおそれのある刃物、爆発物、危険物、薬品、劇物等

◎ その他：

- ・ 乗船にあたっては事前の体調を十分に整えておいてください。睡眠は十分とってください。
- ・ 貴重品や金銭は各自で責任を持って保管・管理していただきます。不要なものはできるだけ持ち込まないでください。
- ・ 寄港地（上陸地）での夕食は、通常、船では用意しません。各自で名物等を喫食してください。

下記の電話番号を家族他関係者にご周知下さい。

緊急時の深江丸の船舶電話番号 <衛星経由>
090-3022-4020 （緊急受信及び公用）

↑ 日本沿岸海域では常時受信可能（衛星船舶電話）

なお、大阪湾や瀬戸内海などでは携帯電話が通じる海域も多くあります。携帯電話の使用は、後部甲板、ファンネル・デッキ等の外部デッキで、他の乗船者の迷惑にならない場所でのみ許可します。

船内生活の心得

神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船深江丸では

「安全管理システム」；SMS (Safety Management System) を運用し、

1. 海上における人命の安全

2. 船舶の安全運航

3. 海洋環境の保護

4. 実習・教育・研究の円滑な遂行

に係る各種のマニュアルを遵守しながら安全運航と乗船者の安全を徹底しています。

船内では次の点にご留意ください。また、乗船中、船内設備や船内生活面等についての質問は遠慮なく乗組員、運航要員までお尋ねください。

運命共同体である"船上"では自分本位の身勝手な行動は絶対に許されません。時として重大な危機を招くばかりでなく乗船者や周囲に対して人的・物的に多大な迷惑をかけることにもなりかねません。乗船者全員が協力して日課の円滑な展開を心がけ、楽しい、思い出に残る航海を目指しましょう。

1. 船内秩序を著しく乱し、あるいは乱すおそれのある者に対しては中途での下船を命じます。
この場合、交通費・宿泊費等の一切について、当該個人の責に帰することとします。
2. 緊急時の対応
 - ・緊急非常時の集合場所は航海船橋後部の **救命いかだ設置場所** 付近とします。乗船後、個々の救命胴衣の保管場所、救命いかだの配置及び緊急時の脱出経路等を必ず確認してください。
 - ・乗船中は緊急時の船内放送に常に注意し、不測の事態が発生した場合は **船長及び乗組員の指示に従い、あわてず、冷静** に行動してください。
 - ・航海中、万一異常な事態が発生した場合は直ちに **大声で船橋まで通報** してください。
3. 喫煙は後部甲板のたばこ盆のある場所でのみ許可します。
 - ・サロン・メスルームを除き、居室や機関区画を含むすべての場所では火災予防のために一切の火気の使用を禁止します。
4. 船内では船橋にある航海計器等の許可された一部のスイッチ類や居室の電灯スイッチを除き、機関室他、船内各所にある **スイッチ類には絶対に手を触れない** で下さい。(空調設備関連を含む)
＜遠隔操作により燃料の遮断、ポンプ停止、舵停止、主機関等が緊急停止します。＞
5. 航海中の夜間は暴露甲板への出入りを厳禁します。実験・計測等でやむなく出入りする場合は当直航海士に必ず申し出て下さい。状況では当直中の運航要員が立ち会います。
 - ・機関区画への立ち入りは原則禁止とします。実験・計測等で同区画に立ち入る場合は、ECCの機関部当直者に許可を求め、その指示に従ってください。
6. 夜間の就寝時間帯は、航海船橋等許可された場所以外には出入りしないでください。
7. 清水は船では貴重品です。船底の水タンクに保有する清水には限りがあります。船の動揺を極力抑える上からも節水を心がけましょう。特に **シャワー使用時の温水の出しっぱなしは厳禁** します。
 - ・シャワーの使用時間は、運航要員を除き、毎日17:00～22:00の間としますが、消費の状況では使用を制限あるいは禁止することがあります。
8. 船内清掃・整理整頓
 - ・毎朝、定められた担当グループによる船内各所の清掃を行います。また、朝食終了後及び寄港地での上陸前に居室清掃とベッドメイクを使用者全員で必ず行ってください。
 - ・船内スペースを実験等で専有する研究班は実験・研究機材の整理整頓についても同様とします。
9. 乗船後、用意されたシーツ・布団カバー等を必ず使用してボンクメイクを各自で行ってください。
 - ・学生ホールは乗船者全員のための多目的ルームです。不用意に横になったり、専有したりしないでください。横になる場合は居室のボンク(ベッド)を使用してください。
 - ・日帰りの航海においては特段の理由がある場合を除き、居室のベッドは使用できません。
10. 船内行動
 - ・船内では個々に準備した名札を常時見やすい箇所に表示してください。
 - ・靴はきちんとはいて下さい。かかとをふまないでください。(靴下を着用)
 - ・船内通路や階段等では静かに行動してください。
 - ・スリッパの使用は、転倒やスリップ等防止のため居室及びシャワー時のみとします。船体動揺等を考慮して良識の範囲内で使用してください。
 - ・海中転落防止のため、船の外回りにある手すりに寄りかからないでください。手すり付近では手すりを手でしっかりとつかんで姿勢を保持、または手すりから離れて内側を行動してください。
 - ・暴露甲板上では常に風下(ふうか；かざしも)側を行動してください。
 - ・船の外回りにある甲板に出入りするときはハッチ・コーミングをまたいでください。
 - ・ドアの開閉は最後までノブをもって確実にしめてください。(ドアー・チェッカー強し)
 - ・船内の通路や暴露甲板上では走らないでください。また、飛び跳ねないでください。
 - ・椅子のある場所以外で座り込んだり、しゃがみこんだりしないでください。
11. 船内発生ゴミはすべて仕分けして持ち帰ります。不要物の海中投棄は厳禁します。
12. 暴露(外部)甲板への出入りは緊急非常時を除き、通常は後部甲板接続階段・実験室出入口及び船橋からのみとします。
 - ・学外の岸壁着岸中は防犯上、後部甲板接続階段一箇所のみとします。(その他は全て施錠)
13. 乗船期間中は深江丸の乗船者として、良識ある行動と誠意ある態度・言動を常に心がけましょう。

船内では24時間体制で様々な人が色々な目的で起居し行動しています。お互いに思いやりと節度、良識をもって行動し、ひとりひとりが楽しい船内生活と円満な共同生活を心がけましょう。

《 人に迷惑をかけられても、迷惑をかけない意識と姿勢を常にもちましょう ! 》